

「くものいと」(関西クモ研究会機関誌), No.32, pp. 16-22 (2002 年) から一部改変して転載.

クモの同定の手引き

ワシグモ科 Gnaphosidae (その4)

加 村 隆 英

トンビグモ属複合群

ワシグモ科のなかには、トンビグモ属複合群と呼ばれる属グループがあります。このグループの特徴は、第3, 4脚の転節腹面に浅い欠刻(凹み)(図1)があることです(第1, 2脚の転節には欠刻がない)。ただし、転節と腿節の間の膜質部が転節にかぶさっていると、この形質は観察しにくいので、腿節を背面側に持ち上げて、転節の縁を露出させなければなりません。全歩脚の転節に欠刻がない場合(図2)、あるいは、全歩脚の転節に深い欠刻がある場合(図3)は、このグループには属しません。

このグループには、腹部背面に白い斑紋をもつ種が多く含まれますが、なかには腹部に斑紋がない種もあります。日本からは7属9種が知られています。

トンビグモ属複合群の属の検索

1. 上顎前牙堤に3本の歯がある(図4) 2
- 上顎前牙堤に幅の広い突起がある(図5, 6, 7) 3
2. 腹部に白色の斑紋がある ヒトオビトンビグモ属 *Hitobia*
- 腹部に斑紋がない ムモントンビグモ属 *Sanitubius*
3. 上顎後牙堤に1本の歯がある(図5, 6) 4
- 上顎後牙堤に歯がない(図7) 6
4. 上顎前牙堤の幅の広い突起に鋸歯がない(図5) 5
- 上顎前牙堤の幅の広い突起に鋸歯がある(図6) ノコバトンビグモ属 *Sernokorba*
5. 後中眼間は眼の大きさより少しだけ広い、中窩は明瞭 ブチワシグモ属 *Kishidaia*
- 後中眼間は眼の大きさの2倍程度、中窩は不明瞭
- ホソミトンビグモ属 *Aphantaulax*
6. 後中眼間は眼の大きさとほぼ同じ ブチトンビグモ属 *Sergiolus*
- 後中眼間は眼の大きさより狭い タソガレトンビグモ属 *Phaeocedus*

ヒトオビトンビグモ属 *Hitobia*

上顎前牙堤に3本、後牙堤に1本の歯があります(図4)。腹部に斑紋があります。日本産として3種が知られていますが、南西諸島にのみ分布する1種はここでは省略します。

ヒトオビトンビグモ *Hitobia unifascigera* (Bösenberg & Strand 1906) (図8-11)

体長は♀ 5.4~7.6 mm, ♂ 3.9~5.3 mm. 分布は本州と九州。腹部に1本の白い帯があるのが特徴です(図8)。

シノノメトンビグモ *Hitobia asiatica* (Bösenberg & Strand 1906) (図 12-15)

体長は♀ 5.5～7.8 mm, ♂ 3.9～4.3 mm. 分布は本州と九州. 腹部に独特の形の白い斑紋があります (図 12).

ムモントンビグモ属 *Sanitubius*

上のヒトオビトンビグモ属と同様, 上顎前牙堤に 3 本, 後牙堤に 1 本の歯がありますが, 腹部は一様に褐色で斑紋がありません (図 16).

ナミトンビグモ *Sanitubius anatolicus* (Kamura 1989) (図 16-19)

体長は♀ 5.3～7.3 mm, ♂ 3.8～5.5 mm. 分布は本州, 四国, 九州. 韓国からも記録があります.

ブチワシグモ属 *Kishidaia*

上顎前牙堤に幅の広い突起があり, 後牙堤には 1 本の歯があります (図 5). また, 雄の触肢の腿節基部に明瞭な突出部 (図 23) があることが特徴です. 後中眼は次のホソミトンビグモ属ほど広くは離れていません.

ヨツボシワシグモ *Kishidaia albimaculata* (S.Saito 1934) (図 20-23)

体長は♀ 6.6～9.7 mm, ♂ 4.4～6.5 mm. 腹部前端に横長の白斑, 中ほどに 1 対の白斑があります (図 20). さらに, 腹部の腹面中央が黄白色である個体が多いようです. 腹部前端の白斑はまれに左右に分かれることがあります. 八木沼健夫先生が, 本種のシノニムになっている *K. quadrimaculata* を記載するときに用いたタイプ標本では, この白斑が明瞭に左右に分かれています. それで, 腹部に 4 つの白斑があることから「ヨツボシ」という和名が付けられたのです. また, まれに腹部の白斑がきわめて不明瞭な個体もあります. 分布は北海道と本州. ロシアからも記録があります.

ホソミトンビグモ属 *Aphantaulax*

上顎の牙堤の状態は上のブチワシグモ属に似ています. 後中眼間は広く, 後中眼の大きさの 2 倍ほどあります.

ヒメトンビグモ *Aphantaulax trifasciata* (O. P.-Cambridge 1872) (図 24-26)

体長は♀ 5.5～10.4 mm, ♂ 3.7～6.6 mm. 腹部前端, 中ほど, 後端に白帯があります (図 24). 本種は旧北区に広く分布していますが, 国内ではなぜか, 南西諸島の西表島だけで採集されています.

ノコバトンビグモ属 *Sernokorba*

上顎前牙堤の幅の広い突起の上に鋸歯があり, 後牙堤には 1 本の歯があります (図 6).

マエトビケムリグモ *Sernokorba pallidipatellis* (Bösenberg & Strand 1906) (図 27-30)

体長は♀ 5.1～8.2 mm, ♂ 4.2～6.2 mm. 腹部に 3 本の太い白帯があります (図 27). た

だし、標本によっては、この白帯が不明瞭なことがあります。八木沼先生の図鑑（八木沼，1960，1986）では腹部に斑紋がない状態で描かれています。分布は本州，四国，九州。韓国と中国からも記録されています。本種の和名の語尾が「ケムリグモ」になっているのは、本種がかつて、ケムリグモ属 *Zelotes* の下に扱われていたことによるものです。

ブチトンビグモ属 *Sergiolus*

上顎前牙堤に幅の広い突起があり，後牙堤には歯がありません（図 7）。後中眼間の距離は眼の大きさと同程度です。

ホシジロトンビグモ *Sergiolus hosiziro* (Yaginuma 1960)（図 31-34）

体長は♀ 6.0～7.9 mm，♂ 4.8～5.3 mm。腹部前端と後端に横長の白斑，中央に 1 対の白斑があります（図 31）。分布は北海道と本州。韓国からも記録があります。

タソガレトンビグモ属 *Phaeocedus*

上顎の牙堤の状態は上のブチトンビグモ属に似ています。後中眼間は狭く，眼の大きさの半分以下です。

タソガレトンビグモ *Phaeocedus braccatus* (L. Koch 1866)（図 35-37）

体長は♀ 4.5～6.9 mm，♂ 4.0～5.1 mm。腹部に 3 対の白斑があります（図 35）。本種は旧北区に広く分布していますが，国内における記録はごくわずかです。

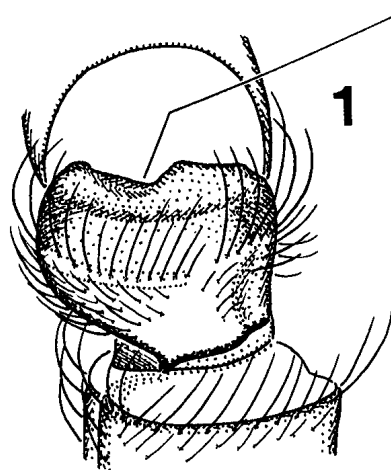
補足：ヨツボシワシグモとホシジロトンビグモの区別

これらの 2 種は，腹部の白斑のパターンがよく似ています。成体であれば，外雌器や雄の触肢によって容易に区別できますが，未成熟個体ではむずかしいかもしれません。検索表に挙げたように，上顎後牙堤の歯の有無によって区別するのが確実ですが（歯があればヨツボシワシグモ，歯がなければホシジロトンビグモ），下顎の形態によっても見当をつけることができます。図 38，39 を参照してください。

文 献

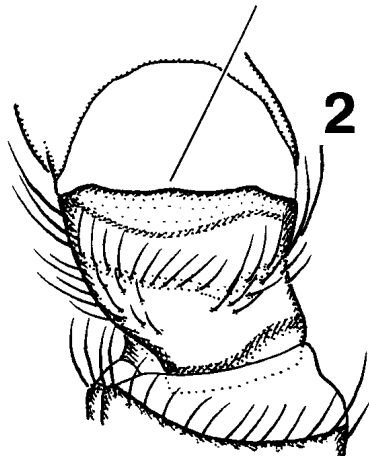
- 八木沼健夫，1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 保育社，大阪，186 pp., 56 pls., 8 appends.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑. 保育社，大阪，xxiv+305 pp., 64 pls.

第3,4脚転節腹面に浅い欠刻

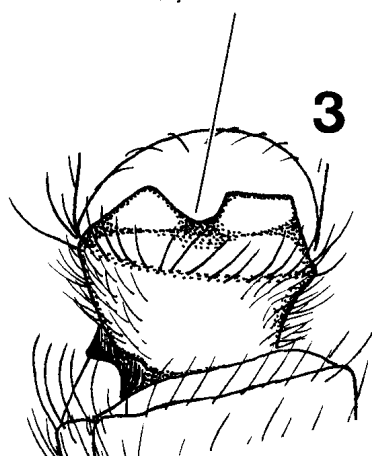


トンビグモ属複合群

欠刻なし



深い欠刻



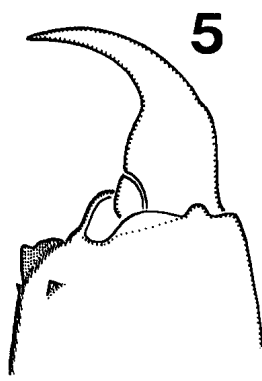
トンビグモ属複合群ではない

Hitobia, Sanitubius

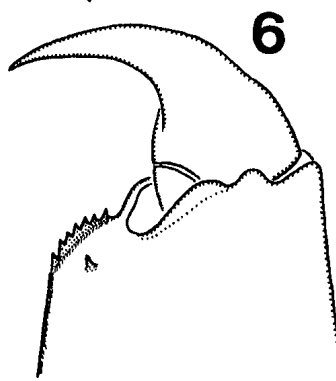


4

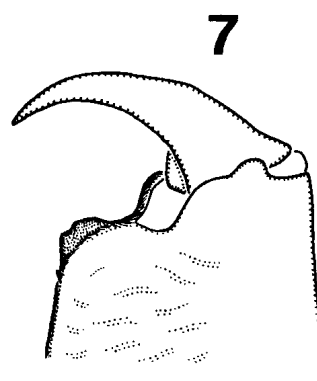
Sernokorba



5



6

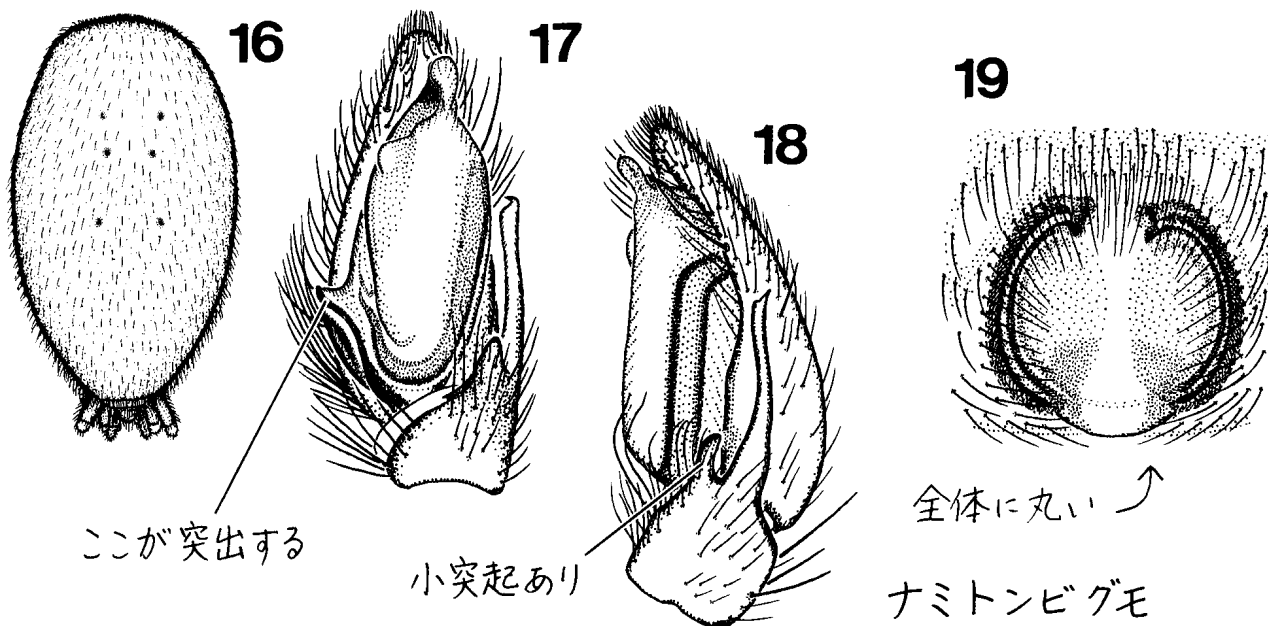
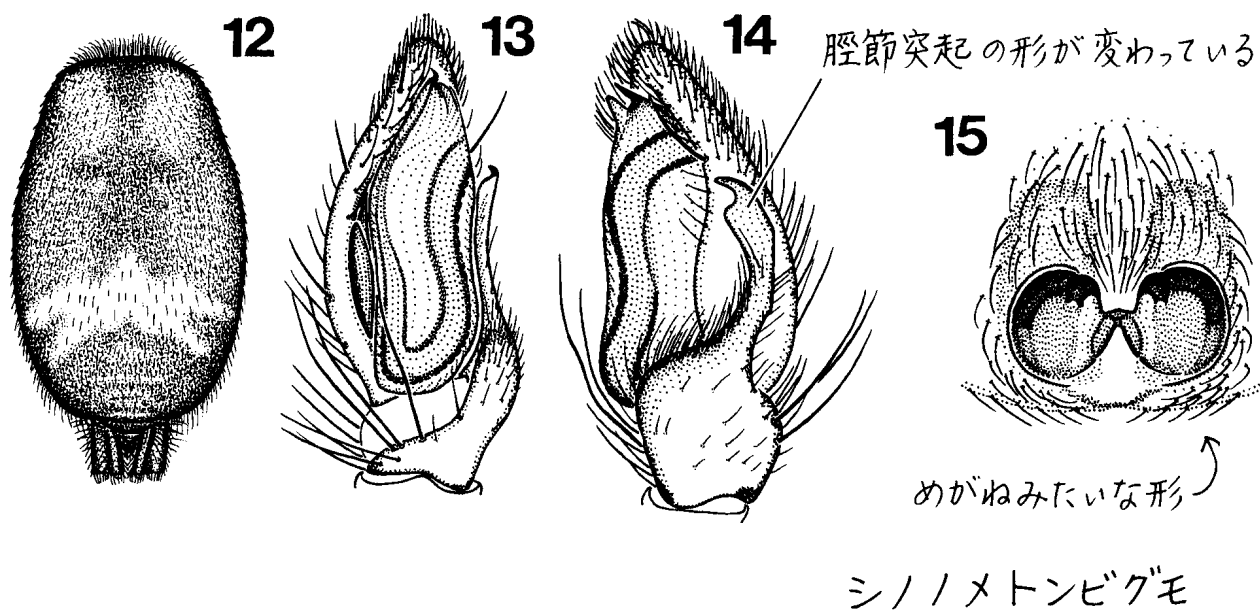
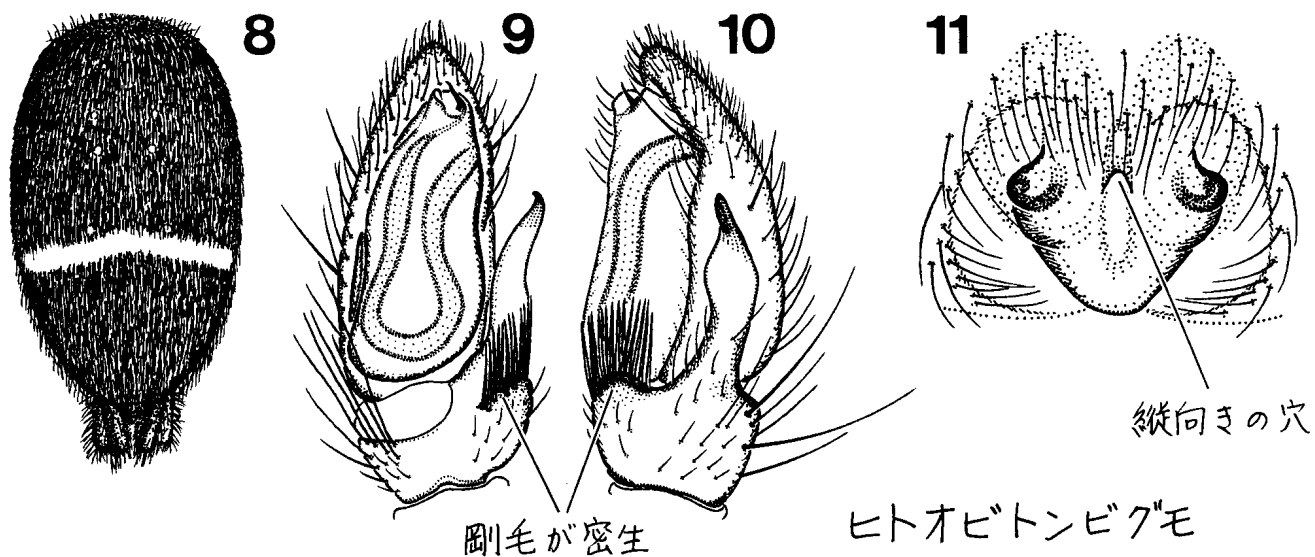


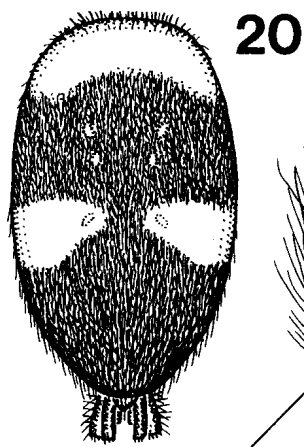
7

Kishidaia, Aphantaulax

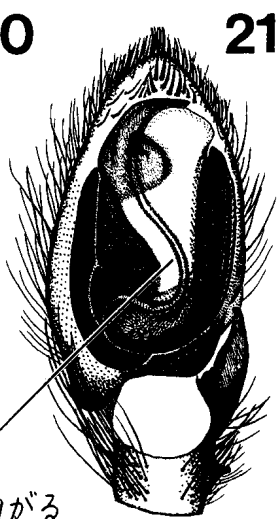
Sergiolus, Phaeocedus

トンビグモ属複合群の上顎(腹面)

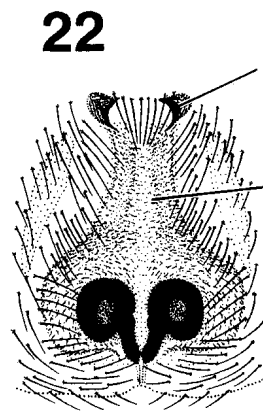




20



21



22

1対のポケット

縦向きに浅い溝

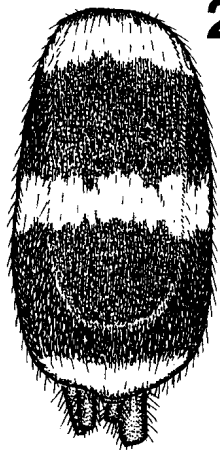
ここが突出する



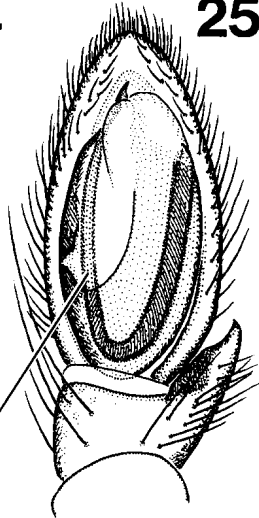
23

内部の管が曲がる

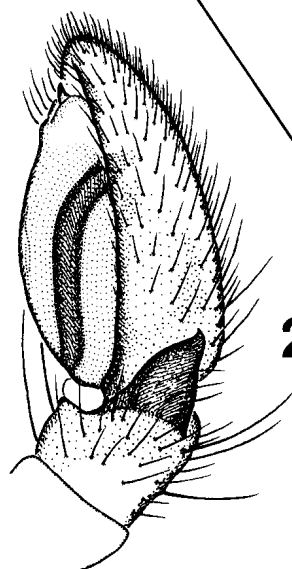
ヨツボシワシグモ



24



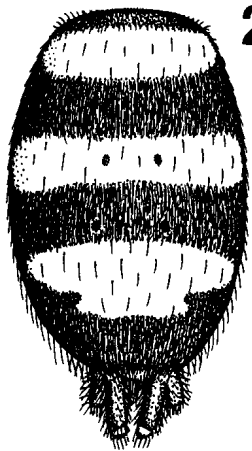
25



26

内部の管は曲がらない

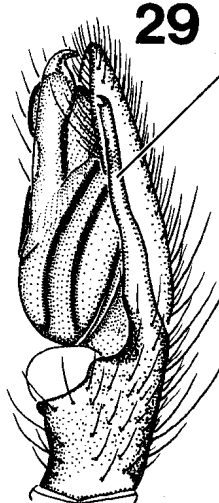
ヒメトンビグモ



27



28



29

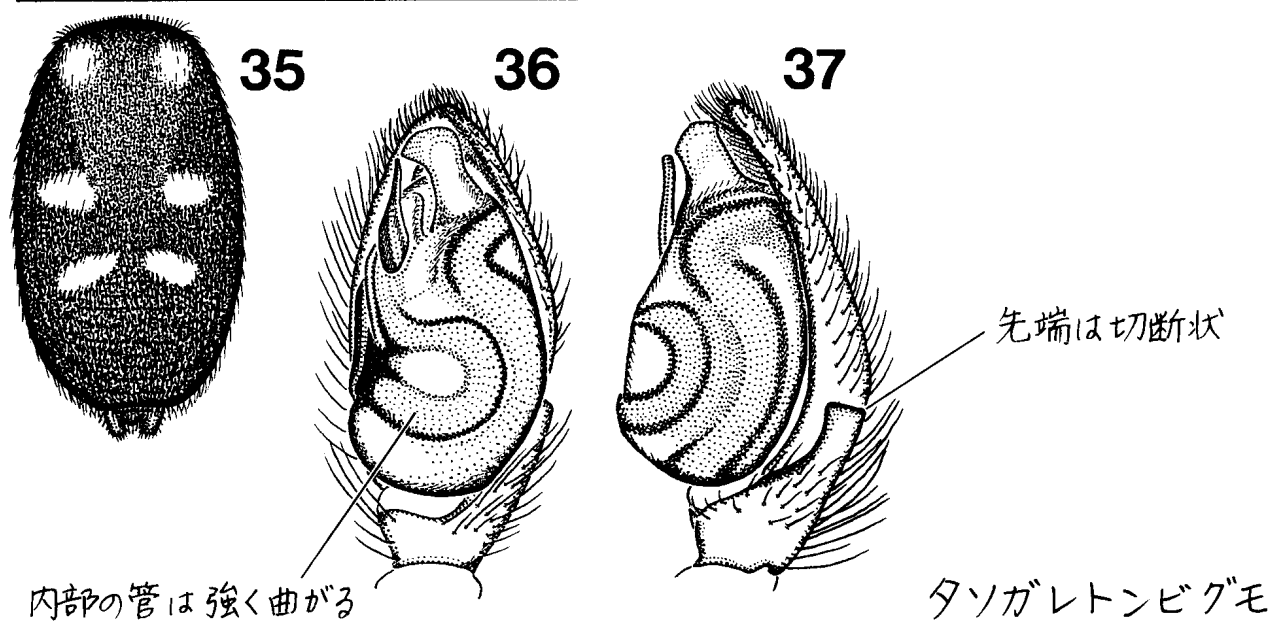
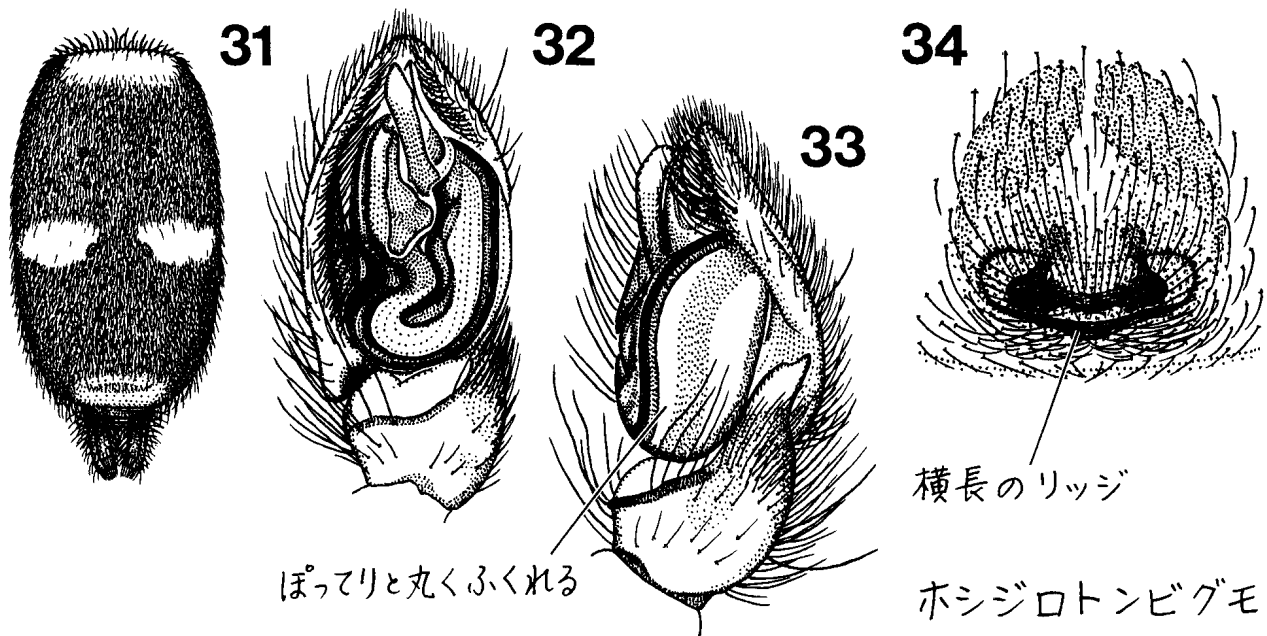
脛節突起が長い

30

縦長のX字形



マエトビケムリグモ



下顎先端部の幅は基部とほぼ同じ

先端部の幅は基部より広い

